



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2013年6月号

「主題」

- 国際会長 : 世を照らす光になろう
 アジア地域会長 : 歳月はY'sをワイズ(賢者)にする
 西日本区理事 : 先頭に立ってワイズの光を輝かそう クラブで、地域で、国際社会で
 中部部長 : 前へ! 声を掛け合い
 プラザクラブ会長 : 明日に希望を クラブに活力を
 強調月間・ポイント:【評価・計画 ワイズメンの満足度が向上したかどうか。クラブ数が増加したかどうか。会員数がいくら増加したか。数値で見える尺度で評価して、次年度の計画につなげよう。】

6月例会および今後の予定案内

【6月第1例会】

日時: 6月13日(木)・18:30-

場所: ケンポー

内容: 高田会長慰労会

【6月第2例会】

日時: 6月27日(木)・18:45-

場所: 名古屋YMCA会議室

内容: 次月例会の打ち合わせ

出席義務者: 役員(高田・榎田・常盤)

7月担当者(後藤・島崎)

8月担当者(大島・鈴木)

【今後の予定】

1. 街頭募金

日時: 6月2日(日)・13:30

集合場所: 名鉄エルメス前

2. 西日本区大会最終実行委員会

日時: 6月6日(木)・19:00-

場所: 名古屋YMCA 3階会議室

3. 西日本区大会

日時: 6月22日(土)・集合時間: 7:30

場所: ウェスティンホテル

4. 総主事就任式

日時: 6月29日(土)・14:00-16:00

場所: ホテル名古屋ガーデンパレス

5. 老人ホーム音楽慰問

日時: 6月30日(日)・小澤宅 11:30 集合

場所: アミーユ星崎 名古屋市南区天白町 5-16-3

TEL. 052-618-2280

5月例会およびその他活動報告 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者			
		1	2	①②③④⑤⑥⑦	
直前会長	大島 孝三郎	○	○	○○○○	
副会長	小澤 幸男	○		○ ○	
書記	榎田 守隆	○	○		
	後藤 猛	○	○		
	島崎 正剛	○		○	
	鈴木 誉三	○	○	○○	
会長	高田 廣	○	○	○○○○	
会計	常盤 真理子	○			
連絡主事	万福寺 昭美				
ゲスト					
課外活動	①西日本区大会実行委員会 5/8				
	①東日本大震災から学ぶ・講演会 5/11				
	③日和田キャンプ場30周年式典 5/25-26				
	④名古屋YMCA 会員総会 5/30				
	⑤				
	⑥				
	⑦				
出席率(%)			88.9		
クラブファンド(円)・当月/累計			6400	50520	
7月号寄稿者・大島(400字詰原稿用紙4-5枚程度)					
8月号・後藤/9月号・常盤/10月号・万福寺					

【2012-13年度クラブ役員】大島孝三郎・メール委員/小澤幸男・Yサユース/榎田守隆・広報事業.ブリテン担当. HP委員/後藤猛・

副会計/島崎正剛・EMC. 交流/鈴木誉三・会計監査. 地域奉仕. 環境/高田廣・ファンド/万福寺昭美・連絡主事

5月第1例会報告

日時:5月9日(木)・18:45-20:15

場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 連絡事項・高田

(1) 東日本大震災に学ぶ講演会・(5/11)

5月号ブリテン案内の上記講演会開演時間が、5月11日(土)18:30と間違っていて記載されていました。正しくは午後4時(16:00)です。

(2) 日和田キャンプ場30周年式典・(5/25-26)

参加者・大島、榎田、島崎、高田

(3) 名古屋 YMCA 会員の集い

日時:5月30日(木)・18:30-

場所:名古屋 YMCA3F 会議室

出欠は各自案内状の同封ハガキで連絡する。

(4) プラザ創立記念

6月はPOM(創立記念月)ですが、西日本区大会開催のため7月に振り替える。6月第1例会は「高田会長ご苦労さん会」をケンポーで行う。

(5) 老人ホームへの音楽慰問

6月30日(日)アミーユ星崎に決定、参加者は大島、榎田、後藤、島崎、鈴木、高田の5人。

(6) 街頭募金実施

名古屋 YMCA 主催の街頭募金に協力する。場所は金山駅、栄、名古屋駅の3カ所で名古屋の5クラブが分担し、YMCAのスタッフ、リーダー、子どもたちと一緒に行動。

◇日時、場所は1面参照のこと。

2. 2013-14年度プラザ役員・島崎

会長・島崎正剛

副会長、会計・後藤猛

書記、ブリテン委員長、メール委員・榎田守隆

直前会長、EMC、BF、EF、BF、JWF・高田廣

YMCA サービス、IBC、YEPP・小澤幸男

CS、TOF・鈴木誉三

広報事業・大島孝三郎

プラザファンド・常盤真理子

連絡主事・万福寺昭美

3. 西日本区大会実行委員会報告・鈴木

5月8日(水)の実行委員会において、最終の実行委員会を6月6日(木)19:00よりYMCA3Fの会議室で行いますので、実行委員以外の方も多数ご参加ください、との要請があった。

(1) 参加者は約800人、能楽堂収容人員をオーバーするため、中部のクラブ会員は別室でモニターを見る。

(2) 6月21日の前夜祭は、参加者が少なく参加者を募集しています。希望者は早めに申し込みのこと。

(3) 6月21日、能楽堂で午後1時から9時までに翌日の準備作業を行う。作業内容、それに要する人数を確定し各クラブに割り振る。

(4) 受付、道案内などの各クラブ担当者は、22日午前7

時30分までにウエスティンホテルに集合、8時15分各自それぞれの持ち場に移動する。

なお、22日の服装は先般購入のポロシャツに男性は黒か紺のズボン、女性はスカートで統一する。

4. 連絡事項・榎田

(1) 2012-13年度プラザ活動状況

5月6日、荒川部長より西日本区大会で発表する上記報告の督促がありましたので、8日別紙ファイル通りの写真とコメントを送信しました。

(2) 陶芸教室延期

6月15-16日、陶芸教室開催を前回参加者に案内しましたが、西日本区大会の準備のため全員欠席の回答でした。9月以降に延期とし、改めて案内いたします。

5. 卓話:「大震災被災地を見て」

講師:高田 廣



JTBが企画したパック旅行「がんばろう東北・復興支援」の旅に参加、会社OBら6人との道中記を語っていただいた。5月のブリテンにも掲載したお話だが、直に聞くとは生々しい。お話を聞きながら、昭和53年から3年間、仙台を拠点に東北6県を営業で回った私には、町々の様子や触れ合った人々たちとの思いが蘇る。釜石では、馴染の寿司屋に入ると店の親父がカウンターの端に座る大男を、顎でしゃくりながら「松尾さんだよ」と小声で教えてくれたこと、久慈だったか、お客さんと飲み過ぎて予定の列車に乗り遅れたことなど、いろいろあった。被災地の人が「取りあえず、来て、見て、買って」と口々に言うのは、「絆はもういい、不満はあるが昔の生活に戻った、普段通りに接して」と思っているのか、一方で「われわれに比べれば、福島の人たちは大変だ」と同情する、東北人のたくましさや優しさを、高田さんのお話からあらためて感じた。

5月第2例会報告

日時:5月23日(木)・18:45-20:00

場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 連絡事項・高田

(1) 名古屋 YMCA 会員総会(5/30)

参加者・大島、高田

(2) 街頭募金 (6/2・詳細 1 面参照)

参加者・榎田、鈴木、高田

(3) 西日本区大会実行委員会 (6/6・詳細 1 面参照)

参加義務者 広報副委員長・島崎、広報委員・大島、
企画委員・高田、小澤 会場委員、鈴木

(4) 西日本区大会準備

日時: 6 月 21 日 (金) ・作業内容/参加者

13:00-21:00 準備作業・榎田、後藤

13:00-21:00 リハーサル・大島、島崎・鈴木、高田

場所: 能楽堂

(5) 総主事就任式

日時: 6 月 29 日 (土) ・14:00-16:00

場所: ホテル名古屋ガーデンホテル

◇第 1 例会と重複する議題は省略しました。

東日本大震災から学ぶ講演会

東日本大震災に学ぶ講演会「風化させてはならない震災の教訓そして支援」が、5 月 11 日 (土)、東別院ホールにて名古屋 YMCA、名古屋グランパスクラブと名古屋クラブの主催で開かれた。聴講者は 150 名。

最初の講師の陸前高田市長戸羽太氏は震災発生後 2 年が過ぎた今も、復興はまだほとんど進んでいないが、人びとの記憶が薄れ始めている。そこで今までのご支援に感謝を示すとともに記憶の風化を防ぐため、各地に出向いて現況報告をしている。一度足を運んで現地の人に言葉を掛けてほしい。それにより、どんなに心が暖められることか。被災を機に多くの優しい人と友達になった。陸前高田市は一気に知名度が上がった。なにも無くなったこのまちを世界一の美しいまち、心の美しいまち、すべての人に優しいまちに再建したい。ノーマライゼーションという言葉が必要のないまちを目指そう。パラリンピックの合宿のまちにでもしたい。この話を持ち帰って周りの人たちに伝えてほしいと結ばれた。

2 番目の講師は佐藤正久氏、福島県出身、自衛官時代、PKO のイラク先遣隊長、復興業務支援隊長でヒゲの隊長として親しまれた。後に参議院議員となり現在京都トウビーワイズメンズクラブに在籍。イラクでは現地人に寄り添う (UNDER 下に STAND 立つ・理解する) 姿勢を守り、自衛隊の活動に心から感謝された。その経験が政治の道に進む後押しになった。福島原発事故の復興業務にも命を賭して使命を全うする自衛隊の基本理念が発揮されている。自衛隊の現場の声を政治の場へ伝え、その評価を高めるべく、今後も活動を続けていきたいと表明された。

3 番目の講師としてタレントの矢野きよ実さんが登場。震災直後から日本赤十字愛知県代表として宮城、岩手県を訪ね、毎月被災地の子どもたちの「心の声」に耳を傾け、書を通じた活動によって子どもの心の癒しに努めていると名古屋弁で語られた。

(大島 孝三郎)

日和田キャンプ場 30 周年式典

5 月 25、26 日の 2 日間、日和田キャンプ場 30 周年式典が行われた。YMCA の方々を始め、ワイズメンバーや YMCA のリーダーとして活躍した新旧の人たちとその家族も交え、初日 60 人、2 日目 100 人が一堂に会した。中村新総主事から、今後の日和田キャンプ場の活用を策定中、みなさまの各種提案が寄せられることを期待している、との発表があった。

(大島 孝三郎)



私の英語学習のアプローチ

英語との最初の出会いは中学での授業であった。教科書は「Jack and Betty」であった。新鮮な気持ちで授業を受けた。教科書の文章を筆記体で書き取る宿題にも楽しく、丁寧に取り組んだ。積極的に予習もしていった。しかし、2 年生の教科書で 2 年 A 組の単語「2A class」の読み方が「セカンドエークラス」なのか「トゥーエークラス」なのか分からず、心の中で「ニーエークラス」と日本語風に読んで翌日の授業を待たなくてはならなかった。そんな時にアンチョコがあることを知り、随分と予習の能率が上がった。学校では、アンチョコは推奨してはなかったと思うが、私はおおいに活用した。しかし辞書を引く時は、ついでに派生語まで読むように心掛けた。話は一挙に英会話に飛ぶが、読み書き (解釈・作文) は、まあまあ出来るが会話ができるほどには聴きと

りも発音も身につけていない。

ところが最近、NHK のテレビ番組で元オリンピックメダリスト森末慎二とアメリカ帰国の歌手青木カレンによるジャズの歌唱レッスン番組で、英語の聴きとりと発音のコツを教えていた。これによって基礎力がかかなり得られると感じた。その他に、パソコンのユーチューブからビートルズの曲を繰り返し聴いた。しかし歌詞カードを見ないと何回聴いても分からないところが残る。それから、石川遼が広告に出ているスピードラーニングを人から借りて聴き始めた。繰り返して、しかも集中して聴くと次第に分かる部分が増えてくる。はじめに英語の台詞が流れ、すぐに日本語が流れる。最初聴きとれなかった単語や言葉も辞書を引かなくても、日本語を聴くと英語がわかってくる。このスピードラーニングに接すると今までのメディアに比べ何倍も密度の濃い訓練が受けられると実感できる。

ふたたび活字に戻るが、池上彰の「経済ニュースを英語で読む」を読んだ。英語の文章の次の行にルビのように日本語が書かれている。専門用語の他にポイントになる単語や熟語とフレーズにも、英語と日本語両方の、その箇所だけがアンダーライン付きの赤字で表記されている。また纏めの記事も英語の文章の後に日本語が赤字で書かれていて読みやすい。経済用語辞典や英語の辞書を使わなくても、資料、解説やイラストが付けられており、経済解説の理解と英語力が同時に得られる親切な構成である。

もう一つ、NHK のラジオテキストの「英語で読む村上春樹…世界の中の日本文学」を読み始めた。村上春樹の短編「象の消滅」である。この短編は、最初『文学界』1985年8月号に掲載され、Jay Rubinに依る英訳が文学雑誌の『ニューヨーカー』に掲載され国際的に広く知られるようになった。日本人作家が英訳で登場したのは、この雑誌の長い歴史を通じて村上春樹が初めてのことである。これが短編作家としての名前を世界に知られるきっかけとなった(沼野充義)。このテキストでは、先ず英訳文があり、次に日本語の原文が載せられている。さらに、英単語とフレーズの説明があり、文法的にも丁寧な説明がされている。また、村上春樹の特徴的な表現を指摘するなど作品の鑑賞の案内が多くされている。この2文を比較すると英訳の表現がいかにも適切であるか、日本の背景や文化が分かっているだけに、非常に興味深く味わうことが出来る。2つの言葉の間には単語同士の対応出来ないものがあるが、その言葉に触れなかったり、逆に補助になる情景を加えたりして原文の思想に迫る翻訳の仕方も解説してあって、作品鑑賞の仕方が高められた。これはキリスト教新約聖書などの日本語訳を読んで、なかなか理解しにくいことと対照的である。語学は一朝一夕には上達しないので無理をしないでマイペースで続け、少しでも石川遼君に近づきたいと思う。

(大島 孝三郎)

聖書の言葉

【私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、言葉で失敗しない人がいたら、その人は、からだ全体も立派に制御できる完全な人です。(ヤコブの手紙3.2)】

【言葉で身を滅ぼす・人は、多くのことにおいて踏みはずすものだ。特に、言葉において。言葉において踏みはずすことのない者は完全な者だ。それほど言葉を制することは難しい。(「超訳 聖書の言葉」白取春彦著)】

【この頃政治家の失言が多い、とテレビのコメンテーターが言っていた。「失言」の意味は「言ってはいけないことをうっかり言うてしまうこと(新明解 国語辞典)だそう。」「子どもに言ってはいけない言葉」「部下に絶対言ってはいけない・・・」「夫婦げんかで・・・」などと世の中、他人の気持ちを気遣う言い方のノウハウ本が沢山出ている。いま政治家向けの「気を付けなければいけない話題」の本を上梓するならば、差し詰め、従軍慰安婦、沖縄、原発、TPP、憲法改正、北方領土など、目次の項目は尽きないだろう。】

Z o o m ・時刻の表記

時刻の表記には12時間制と24時間制があり、おやつの時間は「午後3時」の12時間制、「15:00」とすれば24時間制である。共同通信社発行の「記者ハンドブック」は『24時間制をとっているものも、原則として12時間制に書き直す。[例]午後5時47分大阪発青森行き寝台特急日本海(「17時47分大阪発・・・」と書かない)』としている。また、NHKも時刻の伝え方は、午前・午後をはっきりさせる、24時間制が定着していないことを理由に12時間制を採っている。

月報5月号で「東日本大震災から学ぶ講演会」の開演時間を18:30~20:30と間違えて記載した。書きながら「講演会の時間にしては遅い」と一瞬思ったが、確認しなかったのが悔やまれる。プラザ月報の例会、各種行事の開始時間、議事録の会議経過時間などの表記は、24時間制を採るが、会議の内容、講演会、研究会などの報告文に、24時間制は馴染まないのでも12時間制にしている。

12時間制で問題になるのは昼と夜の12時の表記だが、一般的に正午は「午前12時」(12:00)、正午の1分後は「午後0時1分」(12:01)、真夜中は「午後12時」(00:00)、その1分後は「午前0時1分」(00:01)とする。新聞記事は『昼の12時ちょうどは「正午」、夜の12時ちょうどは「午前0時」』とする。NHKも生活感覚から「夜(夜中)の0(12)時」と表現することもあるが、「正午、午前0時」を使っている。

「東日本大震災から学ぶ講演会」のチケットに表示されている、開場:午後15時30分、開演:午後16時は間違いやすい。午後3時30分か15:30、午後4時か16:00とするが正解だろう。